
Gu-L

黒衣の戦士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

G u - L

【Nコード】

N 8 4 0 5 U

【作者名】

黒衣の戦士

【あらすじ】

主人公たちは修学旅行に行くためバスに乗るがそのバスが事故にあう。

主人公達は森の中に奇妙な洋館を見つける、助かったと思った矢先始まったのは命を懸けたゲームだった。

この小説はフリーゲームのG u - Lを二次創作したものです。

プロローグ（前書き）

はじめましての方はじめまして。

お久しぶりの方お久しぶり。

黒衣の戦士です。

夏ですごく暑いのでホラー小説を書きました。

大学が夏休みに入ると大量に更新できると思います。

もしかしたら冬に差し掛かるかもしれないませんが読んでくれるとありがたいです。

プロローグ

この 作品ハ フィクションです。
実際の 個人 名・団 体名ト ハ
一切関係ありマ せん。

あかばし けいすけ
赤橋圭介

主人公。一般的な感性を持つ高校生。

ななせ たかや
七瀬隆也

圭介の友人。体がとても頑丈で怪我の治癒も早い。圭介の

親友

あさめ ゆうた
朝茅裕太

圭介の友人。携帯電話をよくいじっている。

かんざき えいじ
神崎栄次

異常事態の中でやけに冷静なクラスメイト。

いいだ のぶひこ
飯田信彦

絵に描いたような不良少年。舌打ちばかりで滅多に喋らな

い。

たなが つとむ
田中勉

太った男子生徒。

すずき つきえ
鈴木月絵

圭介に想いを寄せる女子生徒。

まえざわ とも
前沢智

明るいムードメーカー。

にいじま あきこ
新島暁子

不良少女。しかし面倒見が良い？

いしはら あみ
石原亜美

暁子と常に一緒にいる女子生徒。

冴島アイリーン（さえじま あいりーん）

日本語が片言の帰国子女の女子生徒。

ざー・・・ざー・・・雨が降り続いていた。

「げえー、雨だよ雨。」

「早くバスに乗ろうよ。」

「向こうに着いたらちゃんと晴れてくれるかなあ？」

「せっかくの修学旅行なのにねー。」

「ホント、ついてないよなー・・・高校最後の修学旅行だって言うのに・・・ん？」

足元に紐の切れた、シルバー製の頑丈なペンダントが落ちていた。

俺は、この持ち主を知っている。

「鈴木さん、鈴木さん」

俺は前にいた鈴木さんに声をかける。

「え？何、赤橋君。」

「これ・・・ペンダント落としたよ。」

と言い鈴木さんにペンダントを渡す。

「ありがとう、これ私の宝物なんだ。

よかった・・・赤橋君が見つけてくれて。」

「それ金具が壊れちゃたんだね。」

「うん・・・簡単に直りそうにないなあ。」

少し悲しそうな表情になる。

「あのさあ・・・俺が直してあげようか？」
と圭介は言つと。

「え！いいの？」
と少し驚いた声で言つ。

「うん、俺、結構手先器用なんだよ、ちよつとの間、借りてもいいかな。」

「うん・・・ありがとう。」

早くバスに乗る、このままじゃ、風邪ひいちゃうよ。」

「うん。」

でも、ウソだった、直せるなんて・・・でもただこうしたかった。
きつと後で嘘つき呼ばわりされるかもしれないけどさ・・・。

制服についた雨をはらつた後、ノートパソコンを取り出しゲームを始める。

「もしもアナタの周りにいる人間。
それも親しい間柄の人間・・・家族・恋人・友人・・・が殺人鬼だった時、アナタはどうしますか？」

「っ！?!?!?」

隣から臨場感MAXの声がして圭介が声のした方に振り向く。

「お前、あいかわらず怪しいサイト回つてんだなあー。」

「なんだ、隆也かよ・・・驚かすなよ。」

圭介はため息を吐き、再びゲームに戻る。

「てか、お前、修学旅行にまでノーパス持ってくんなよ。」
隆也は呆れたように言う。

「いいだろ別に、ほかにやることないんだし。」

「まあ向こうにつくまではヒマだけどさ……ん？お前、そのペンダント、何？」

隆也は圭介の荷物を見ながら言う。

「勝手に人の荷物の中、見んなよ。」

圭介は少し怒りながら言うが隆也は、

「お前の……じゃなさそうだな。」

このペンダントの持ち主を探していた。

「……」

「ん？何これ、壊れてんじゃん。」

圭介はため息交じりに持ち主の名前を言う。

「鈴木さんのだよ。」

「何で、お前が持ってたの？」

「……」

圭介は答えない。

「あ……もしかして、『俺が直してあげようか？……うん、俺、結構手先器用なんだよ、ちよつとの間、借りてもいいかな。』とか、チヨーシのいいこと言ったんだろ。」

隆也は心を読んだようにさっき答えた言葉をそのままいった。

「……っさい」

圭介は少し赤くなりながら言う。

「つーか、直せんのか？」
隆也は真実を聞いてきた。

「・・・やろうと思えば人間、何でも出来る。」

「できねー、って意味か」

隆也はアッサリと答える。

「・・・」

「なあ、俺が直しといてやろうか？」

隆也は小声で圭介に言う。

「はあ？」

「あつ、もちろん鈴木さんには、内緒でお前にも少しは、イイ目見
てもらいたいし、親友としては。」

「・・・おう。」

圭介は隆也の提案を受け入れた。

「まあ俺にまかせろよ、上手くやってやるからさ。」
自信たっぷりと言う。

七瀬隆也は俺の親友だ。でも俺とは正反対で、本当に何でもできる
し、性格だって明るい。

でも俺はさつき隆也がゲームの画面を読んだだけのセリフを思い出
していた。

『もしもアナタの周りにいる人間。

それも親しい間柄の人間・・・家族・恋人・友人・・・が殺人鬼だ
った時、アナタはどうしますか？』

昨日ダウンロードしたPCゲームの一部のセリフだ。

でもそんな事は俺の人生には関係なさすぎる、ありえない、そうた

だのゲームなんだから。

「にしてもさあ、お前・・・またそんなにジューズ持って来てんのかよ？」

「仕方ねーだろ、のどが渴いて仕方ないんだからさ。」

「だからと言って、飲みすぎだろ・・・」

そんな空気をぶち壊すように隆也の横に座っていた裕太が話しかけてくる。

「そっぴゃ、圭介あのゲーム、ゾンビどこまで殺った？」

「俺は98匹殺った、けど」

「マジで！人間は？」

「2・3人間違えて殺っちゃったから得点減らされたんだよなあ。」

「ははは、だっせー！」

話の流れについてこれてない隆也は聞く。

「っーか・・・何の話？」

「え？あゝ、さっきお前が覗き込んできた、ゲームの話。」

隆也は納得したように

「ああ、あれか。」

「ゾンビ撃ち殺していくゲームなんだよね、しかも裏ワザで武器使いたい放題！」

裕太がさらに説明を加える。

「だから派手に殺っていきたいんだけど・・・」

「たまにさ、人間がいるんだよ、ゾンビから逃げてる。」

「なんか問題あんの？」

「関係あり、人間殺ちゃうとさあ、得点減点されちゃうんだよね。」

「だからあんまり派手な武器で暴れまわれないところがこのゲームのヤなところなんだよ。」

「もう、おまけモードとかでさゾンビだけってやってくれないかな。」

「だよな」

「ふーん・・・あのさ、それどこで」

すると突然、乗っていたバスが激しく揺れ始めた。

そして、視界に赤いものが広がった、赤い、みんな赤い。

でも空は黒い、何？ いったいどーいう事？

そして圭介の意識は闇に沈んだ。

「・・・介・・・圭・・・介・・・圭介、大丈夫か？」

「・・・？え？何？・・・痛って！」

体中に痛みが走る。

「立てるか？」

「・・・何とか」

と隆也が手を差し出すと、圭介は手を握り立ち上がる。

圭介は周囲を見渡すと怪我をしたクラスメート数人がいて、俺たちは森の中にいた。

プロローグ（後書き）

えーと、この小説のジャンルに2つエンドがあるのかということ2種類のエンドがあるからです。

ここでアンケートを取ります。バットが先かハッピーが先か選んでください。

そして、感想ページに送ってください。

期限はこの小説の本編で一人目が死ぬまでよろしくお願いします。

零 作「魔法戦士リリカルなのは 1st memoryもよろしく。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8405u/>

Gu-L

2011年7月22日15時33分発行